



通常訪問研修を終えて 釜ヶ淵小学校

研修主題：一人一人のよさを捉え、育む授業

本校では今年度も、「主体性の育成による学びの自立」を重点目標として取り組んでいます。通常訪問研修で明らかになったことや課題を紹介します。

<明らかになったこと>

- ・教材の提示の仕方を工夫したり、子供の実態に合った題材を設定したりすることで、子供の主体性を促すことにつながった。道徳科では教材文を大切にすることで主題に関する問題意識が高まる。選んだ教材の魅力は何か、登場人物の言動のよさはどこにあるか等を捉えながら事前に分析することが大切である。
- ・特別支援では、子供の困難にアプローチするだけでなく、強みも生かした活動を設定することで、実生活へと生きる力となる。何のために取り組んでいるのかという目的意識をもたせることや、学んだスキルを活かす実践の場にする必要がある。
- ・理科では、前時であやふやだった発芽と成長の違いがはっきりとしたことで、必要な条件について考えを深めることができた。教師が自分の思い通りのルールに乗せようとするのではなく、子供たちの発言に問い返したり、広めたり、ゆさぶりをかけたりするなどして、授業を展開していたので、それぞれの子供のこだわりや個性、よさが見えた。



<残された課題>

- ・理科では、根拠のある予想にするために事象の観察、現場検証が必要である。全体での話し合いの途中で個に返し、書く活動があってもよい。そうすることで子供は自分の考えを再構築、リニューアル、アップデートすることができる。
- ・振り返りでは、視点を与えることで、評価のできる書き方にするとよい。子供にとっても学びを実感できるものにしたい。

<今後の対策>

- ・子供たちの中には自己調整しながら学習を進めていることが分かる姿（発言、表情、身体反応）があった。それらをビデオや記録を基に再検証していく。今後は、本時で見えたその子らしい考え方や、こだわり、考えの変容等を授業のどこでどのように生かすか、また、生かす場をどう設定するか検証することを通して、子供の学びを見取る力を高め、教師力向上へとつなげたい。

多くの示唆を与えていただき、これまでの取組の成果と、今後の研修の方向性を確認する機会となりました。

文責 教務主任 宮前 小百合

